



instinctively

—強い自我とコミュニティの形成による人間性の補完—

K01037 小田修平

1. problem :

- i) 過度の情報化社会による人のつながりの遠距離化。
日本でもユビキタス環境化が推進され、情報交換等の簡易化が進んでいる一方、人の行動範囲が狭まる。
- ii) i) によってもたらされる、人間性の喪失。ユビキタス化により行動範囲が狭まった人間は、やがて家や拠点空間から移動しなくなり、町から人が消える。そして人は、身内以外の他人と接することを恐れるようになっていく。

→情報という形のないもの(無機物)に対して、生命(有機物)の補完を目的とするプロジェクト。

- i) 人間性 “humanism” の熟成 → communication, education, etc...
- ii) 生命活動の推進 → eat, sports, sleep…… = lives
- iii) 生産活動 → farm, etc...

現代社会における、便利さを求めるはずの技術の著しい変化、それによる社会形態、経済形態の変化に多くの人は対応できず、ただ与えられた範囲の中で科学的に“生きている”だけで自分がなぜ生きているかを説明できない。自分の存在意義が、社会の利便化によって見失われていく。

私が思うに、人は人の中に生き、親しい友人や家族、恋人と共にいるときに心から安心することができる。それを自分に帰れる場所と定義するならば、人はやはり人の心の中に存在しているのである。そして人は常に安心を求め、同時に幸せを求めている。それを単に利便化、情報化というデジタルで全てが簡易化された世界に奪われることなく、人と直接出会い、会話を楽しみ、共に何かを共有、創造することが、本来人間にとって大切なこ

となのではないだろうか？

そして建築、都市は社会、人間に合わせてその姿を変えてきた。逆をいえば、建築によって、情報と人間とがうまく共存、調和した、有機的・人間的な都市計画が可能ということではないか？

情報技術と経済が先走りし、人間が取り残されることを危惧したアンチテーゼとして、この卒業研究・設計を計画する。

2. 1 theme :

自然を媒介とする強いコミュニティの形成

2. 2 design and purpose :

ある程度の強制力を持った組織的集合住宅と、核となる複合文化施設による、強い人間性の形成と、国民性の復元(地域力の強化)を目的とする。

2. 3 method :

i) 手賀沼という自然の媒介的利用

手賀沼は、国内ワーストといわれるほどの環境問題を持った自然である。しかし一方では、土地に古くからの歴史もあり、またその景観に胸を打たれるものも多い。この、メリットとデメリットとの共存が現在であり、またこのデメリットを逆に利用して、強制的・必然的なコミュニケーションを提供して、強いコミュニティ形成を図る。

ii) 必然的コミュニケーション

この集合住宅には、いくつかの協定があり、それを受け入れる人々による街・地域づくりが目的である。現在の首都圏地域では、自宅の周辺住民や、マンション・アパートでは隣人との面識や関係が機械的な挨拶を除けば、

ほぼ消滅してしまっているといっても過言ではない。

悲しいことに、現代社会では、利便化を目的に技術が著しく進歩させた結果、人間がそのめまぐるしい変化に対応できず、うまくその情報・電子ツールを活用できず、孤独化してしまっているのである。現代人は、誰かに強制されるような状況でない限り、自らの時間を割いてまで、コミュニティは必要ないと錯覚し、コミュニティを形成できなくなっている。

そしてその恐怖は、ユビキタス環境が進んでいくにつれ、加速化していくのではないかとと思われる。人と人とのつながりは明確さを失い、目に見える形で弱まっていく。そして必然的に地域力は弱まり、次第に人間は孤独化していつてしまうであろう。

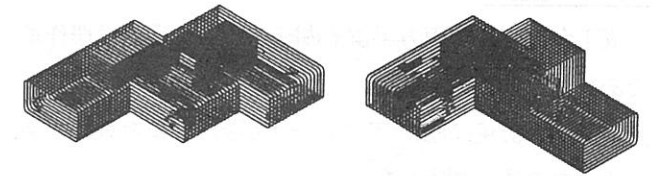
その対策として、集合住宅に手賀沼の自然を守るようなプロジェクトを付加し、住民には強制的にそのプロジェクトに参加してもらい、強制的にコミュニティを形成させ、地域力・人間性を強化する。ゆくゆくはそのプロジェクトも住人主導のものとして、手賀沼という自然・地域を住民の共有物であると意識させ、手賀沼を媒介に地域力を強化していく。

また、その強制的なプロジェクトの恩恵として、沼による収益の共有、沼や核となる複合文化施設の優先利用を用意する。

iii) 集合住宅プラン

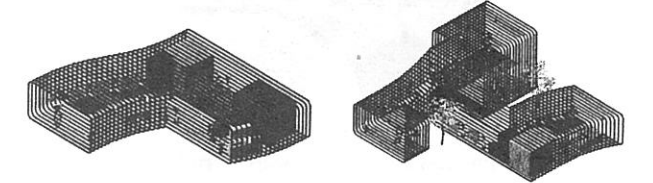
Private 空間と public 空間との間に、中間領域(=自由域)を提案し、private と public を緩和する空間であるとともに、より public に近い private な空間として、コミュニティの形成を図る。

設計意匠としては、private (寝室、風呂、トイレ) を守るべき空間と考え、直線を使った形状(固いイメージ)とし、public である複合文化施設の、曲線を多用した、有機的な形状(柔い、やさしいイメージ)とを緩和するため、長方形を面取りしたフレームを用い、またそれを、間隔を置いて連続的に配置していくことにより、自由な形状を持つ、半閉鎖・半開放的な空間を作り、中間領域としてコミュニティ形成を図る。



Cave house pattern #1

Cave house pattern #2



Cave house pattern #3

Cave house pattern #4

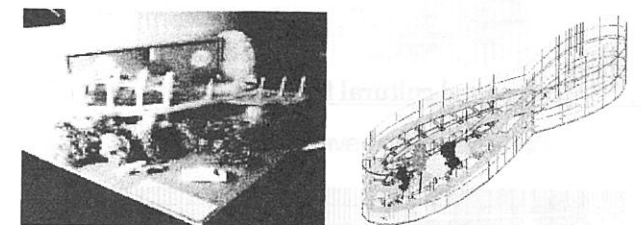
example model of houses

iv) 複合文化施設

(公民館+図書館+shop+café+and so on...)

複合文化施設に、学校のような、独自の教育機関を付加し、その土地の自然・ビオトープを利用して、勉強以外のところでの学習(強い人間性の形成が目的)を用意する。ローカルなこども会のような、一つの目標を共有するグループ学習と、それによって集団⇄個というコミュニティで、人間性を強化する。

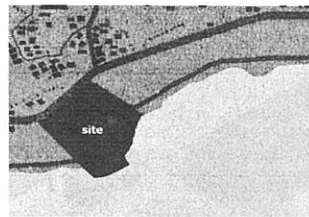
設計意匠としては、スロープにより、らせん状に上階へと上っていくのに沿って、階段状に小さなフロアを配置する。それによって、スロープという安定しない空間から、人は必然的に階段状フロアへ逃避する。そこには、上で紹介したような機能が用意されていて、コミュニティとしての場を提供する。ユビキタス建築の巨大空間にあえて反する空間を設定することで、強制的に人とコミュニケーションを取らざるを得ない環境を作り出す。



compound cultural facilities

3, 1 site :

天王台、高野山南方手賀沼湖畔とする。現状は農作地であり、周辺に建物も少なく、遊歩道が整備されていて、JR 天王台駅から強いアプローチがあり、また地形が気に入ったため、選定した。



3, 2 present condition :



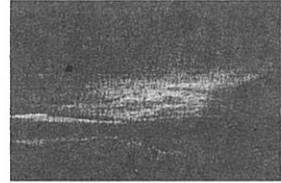
オイルフェンスと紙による廃油への応急処置



現在使われなくなったまま放置されているボート小屋



柏ふるさと公園から手賀沼への景観



手賀沼の朝焼け

4, drawings :

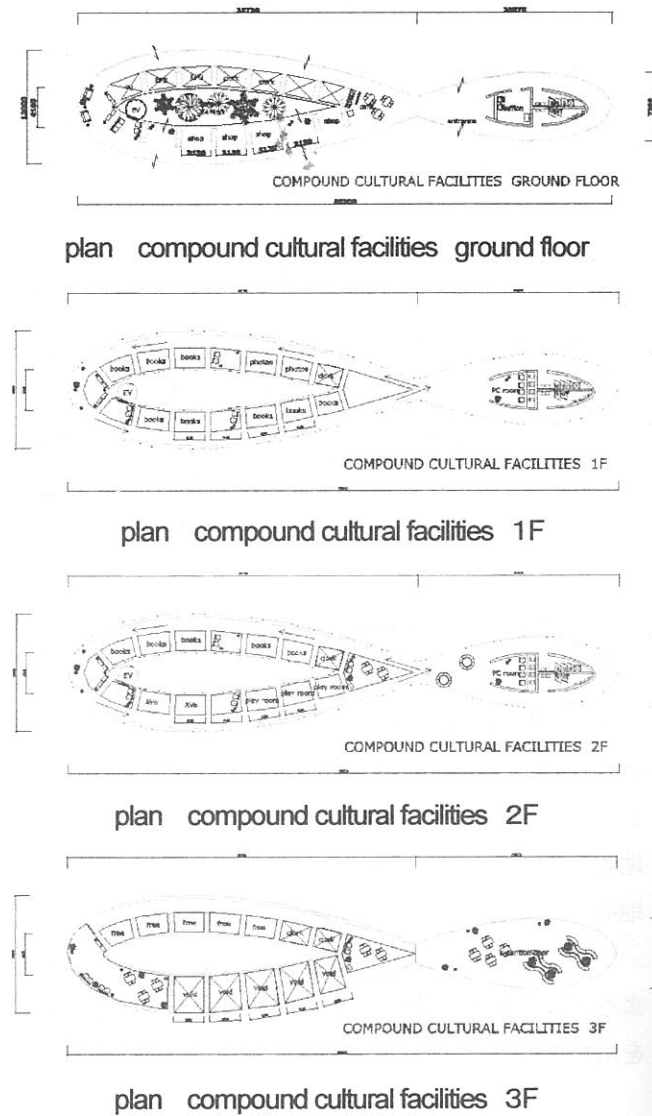
4, 1 Arrangement:



4, 2 compound cultural facilities:



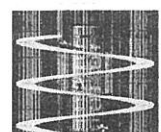
south - west section compound cultural facilities



south - west elevation compound cultural facilities



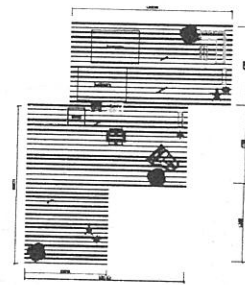
south - east elevation compound cultural facilities



south - east section compound cultural facilities

4, 2 cave house:

4, 2-1 cave house pattern #1:



plan cave house pattern #1

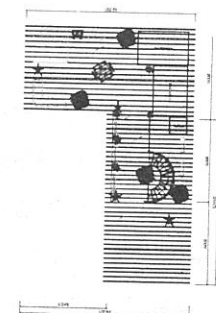


west elevation cave house pattern #1

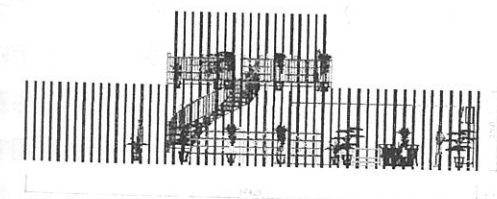


south elevation cave house pattern #1

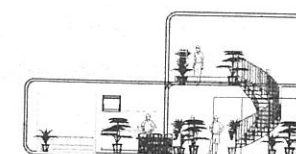
4, 2-1 cave house pattern #2:



plan cave house pattern #2

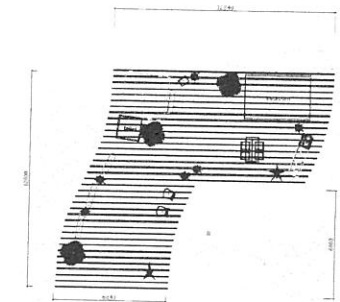


west elevation cave house pattern #2

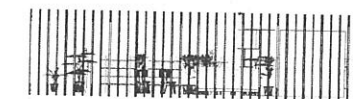


south elevation cave house pattern #2

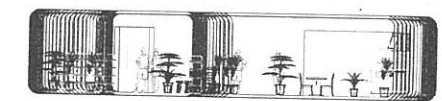
4, 2-1 cave house pattern #3:



plan cave house pattern #3

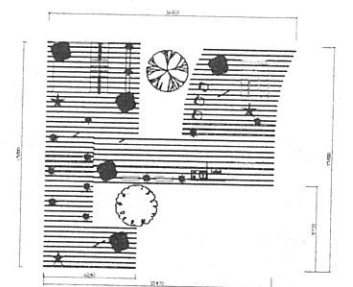


west elevation cave house pattern #3

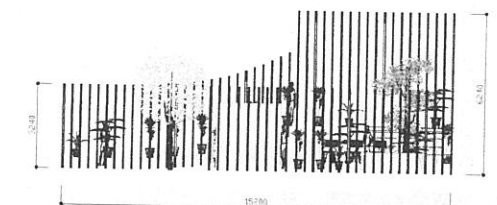


south elevation cave house pattern #3

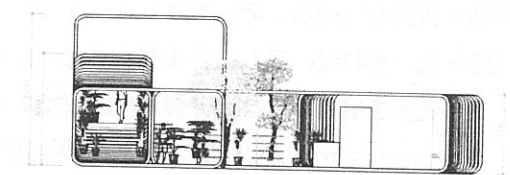
4, 2-1 cave house pattern #4:



plan cave house pattern #4



west elevation cave house pattern #4



south elevation cave house pattern #4